

# 自己の省察を通じた社会科教員としての 実践的知識と職能理解

— 2年間の学校実習を契機として —

学 籍 番 号 199335

氏 名 中前亮祐

主 指 導 教 員 峯明秀先生

## 1. 問題意識

社会科教員として自身はどのように成長していけばよいのだろうか。筆者の2年間の学校実習は、日々の授業の省察の繰り返しであった。その中で社会科教員としての実践的知識の習得や職能理解があったのではないだろうか。また、来年度以降に入学する教職大学院生に対して、社会科教員としてどのように成長していけばよいのかという1つの指針になるのではないだろうか。そして、何よりも筆者が来年度以降に社会科教員として働くための現時点の筆者自身をメタ的に捉えることができるのではないだろうか。本教育実践研究はこれらの問題意識を原点としている。

## 2. 研究主題

本教育実践研究の目的は、2年間の学校実習を契機として、自己の省察を通して社会科教員としての実践的知識の習得と職能理解をどのように行えばよいのかについて提案することである。

佐藤学(2009)は教職の専門家像として、ドナルド・ショーンの提唱した「技術的熟達者」(technical expert)と「反省的実践家」(reflective practitioner)の2つの教師像から検討している。佐藤は後者の「反省的実践家」モデルを普及し発展させる方向で教師教育研究を行っている。このような流れは社会科教育研究においても同様であり、省察を通して自己の職能発達や授業観の見つめ直しにつながるような研究が進められている。また、省察行為の重要性についてはショーン(2001)やF・コルトハーヘン(2010)の論考から伺うことができる。

本教育実践研究では、教員にとって自己の省察がいかに重要であるのかを示す。自己の省察を通して社会科教員としてどのように成長していけばよいのだろうか。そしてどのようにして、社会科教員としての実践的知識の習得と職能理解を行えばよいのだろうか。筆者の2年間の学校実習から、そこで得た実践的知識や職能理解を示す。そのことで、来年度以降に入学する教職大学院生に対して、社会科教員としての成長の1つの指針を示すことができるだろう。

### 3. 本教育実践研究の対象と方法

本教育実践研究では、筆者自身の学校実習での授業実践を対象とする。そして、以下の2段階で研究を進めた。

第一段階では、学校実習での授業の実践結果を分析した。学校実習での授業実践は、筆者が実習先で授業を行った基本学校実習Ⅱ、発展課題実習Ⅰ、発展課題実習Ⅱの実践を取り上げる。その授業実践の結果は、学校実習ごとの筆者の変容を見取るために、実践当時の筆者の考察を通して客観的に記述する。

第二段階では、学校実習の成果を踏まえ、現段階の筆者の社会科教員としての実践的知識の習得と職能理解の状況を分析する。社会科教員が習得すべき実践的知識を理解し、筆者が学校実習を通して、習得できた実践的知識と習得できなかった実践的知識を分析する。また、社会科教員に必要な職能を理解し、筆者が学校実習を通して、教職大学院入学前の筆者の職能理解と学校実習後の職能理解の比較から分析する。

### 4. 本教育実践研究の意義

本教育実践研究の意義は以下の2点にまとめることができる。

第一に、教員にとって自己の省察がいかに重要であるのかを示したことである。自己の省察を日々の授業実践ごとに行っていたため、2年間の学校実習を通して新たに習得した実践的知識があり、職能理解が変容し、拡大されたといえる。

第二に、社会科教員として習得すべき実践的知識を示し、どのように習得したのかを示したことである。五十嵐誓(2011)の実践的知識の分類をもとに、筆者がどのような実践的知識を習得したのか、あるいは習得できなかったのかを分析した。習得した実践的知識は、①単元を構成する能力、②一つ一つの授業を何のために教えなければいけないのかを考えることができるようになったこと、③ICTを活用したからといって優れた授業になるとは限らないことの3点であり、主に授業づくりやICTに関わる実践的知識であった。また、習得できなかった実践的知識は、①学習者について授業の際に考えることができなかったこと、②授業における空間把握が行えていなかったことの2点であり、主に学習者についての実践的知識であった。

第三に、社会科教員の職能について示したことである。五十嵐(2011)の社会科教員の職能構造図をもとに、筆者の社会科教員としての職能理解の変容を分析した。それは、①社会科に対する授業観が変容したこと、②授業の評価に対して筆者の認識が変化したこと、③他者との協働の学びによる実践的知識の習得が可能になったことの3点であった。2年間の学校実習を通して、教職大学院入学前の筆者の狭い社会科教員としての職能理解が広まり、その細部に渡って必要性を理解した。